

1993年度・映画「学校」を語り合った授業の記録（板野中学校3年A組）

主 題 「ほんとうの幸福って何だろうか」

1994年2月5日（土）

資 料 映画「学校」（山田洋次監督）

授業者 森 口 健 司

はじめに

映画「学校」を全校で見ることになる。中学3年の最後の瞬間をあとわずかにひかえた時期にクラスの仲間と共にこの映画に出会えたことの意義はとても大きなものがあった。映画を見た2月4日はPTA授業参観日であり、映画を見る前の時間に当時文部省での道徳資料としてまとめていた『峠』という作品についてクラス全体で話し合った。その授業の感動と映画の感動が重なって生徒一人一人の心に豊かなものを残していく。翌日の生活記録の中に熱い思いが溢れる。私は翌日の特別活動の時間に映画「学校」への感動を語り合う時間を設定した。映画の感動を語り合う授業をしようと思ったのは、Sが記してきた生活記録であった。彼は参観授業として取り組んだ『峠』の授業に重ねて次のように綴ってきた。

※ ※ ※

僕は今日の5時間目の道徳の時間、十分に思いが語れなかった。チャイムがなっても、まだ発表することがあったんだけどやめた。だからそのことを今日書いておきたい。この思いは今日みんなで見えた映画「学校」について思ったこととも重なってくる。

みんなは、『峠』の主人公・恵子の生き方についていろんな思いを語ってくれた。そしてみんなの家のなかにある部落差別について語ってくれた。みんなは両親と対立することが多いみたいだけど、僕は父さんにすごく感謝している。僕は父さんのおかげで母さんがいなくなっても、僕が好きなことをやらせてくれる。僕は小学校6年生のときに柔道を始めたんだけど、柔道を始めるとき父さんは結構反対していた。でも父さんは僕の気持ちをわかってくれて僕は柔道を始めた。父さんは僕が疲れているときなんかはギャクを言ってくれたりして僕を励ましてくれる。

小学校の低学年のとき、父さんに算数の宿題を教えてもらったことがある。僕はその次の日、宿題を忘れなかったので気持ちがとても楽だった。でも答え合わせをしたときびっくりした。父さんに教えてもらった問題は全部間違えていた。そのときはものすごく恥ずかしかった。僕は父さんはアホじゃと思った。でも今そのことを思い出すと、本当は問題がわからないのに、一生懸命僕に教えてくれたことを思うと、たまらない気持ちになって涙が出そうになる。だから目茶苦茶父さんに親孝行しようと思う。また、姉さんにも感謝している。仕事が終わって晩飯を作ってくれて、今付き合っている人がいて会いたいだろうけど、会いたいのを我慢して晩飯を作ってくれたり、いろんなことをしてくれる。姉さんは結婚したいみたいだけど、なかなか家のことでできんみたいやけん、僕は本当にもっと頑張って姉さんを楽に結婚させてあげたいと思います。これが僕の本当の思いです。

※ ※ ※

重荷を担ぎながら精一杯生きる生徒の輝き、このような生徒と出会わせてくれたことにただただ感謝するのみである。映画「学校」に寄せる授業は、この生徒の語りから始まった。

※ ※ ※

主 題 「ほんとうの幸福って何だろうか」

～全校で観賞した映画「学校」に寄せて～

T 1: 昨日、全校で見た映画「学校」、みんなはどんな思いになっただろうか。この時間は、み

んなの感想を語り合う時間にしたいと思います。このまえ、劇場で見たときにその劇場で購入したパンフレットです。最初のところを紹介します。

～「学校」について～

教えることも学ぶことも共に大きな喜びがあるはずだ。

「学校」が、教師にとっても生徒にとっても、楽しいところであって何故いけなのだろう。

今から15年前、山田洋次監督は自分のイメージするそんな「学校」を夜間中学校に見い出しました。そしてこのテーマを映像化しようと決意したのです。

夜間中学は、公立のものが全国に35校、その他に有志のボランティアによって運営される自主夜間中学が数校存在します。

世の中のひずみが象徴的に現れる教育問題。夜間中学に通う生徒は、そんなゆとりのない教育の場から様々な意味ではみだしてしまった人たち。

山田監督は実に15年もの長い間、夜間中学で学ぶ生徒たち、教師たちを見つめ続け、そして今ようやく映画「学校」の撮影が始まったのです。この作品に対する監督の思いの深さがうかがえます。

舞台は東京の下町のある夜間中学校。そこには様々な境遇、様々な年齢の生徒が学びそこで教えることに情熱をそそぐ先生がいる。「学校」はそんな生徒と先生との心と心の交流を描いていく。

これまで、日本の現状や人間愛といったテーマを、映像作家・山田洋次は一貫して訴え続け、多くの人々の共感を得てきました。その集大成ともいうべきこの作品では、さらに「人間にとって本当の幸福とは何か」という非常に大きな、そして深い問いかけを投げかけます。

ゆとりのない社会、そしてそこで生きる人が忘れかけてしまった心を取り戻すために……。

T 2: 昨日、観ているんなことを感じた、いろんな思いをみんなが生活記録に綴ってくれていました。みんなのいろいろと思う部分を語ってほしいと思います。

C 1: 昨日の映画を観て、ものすごく感動したんです。最初の方に、字を書けない人が一生懸命に字を覚えていたところがあったけど、あの場面を見ていたら、なんかすごく可哀相になった。あの人の姿と僕の父ちゃんがダブってくるんです。僕の父さんも、あんな感じやったのかなあと思えてたまりませんでした。小学校のときに宿題を教えてもらおうとしたことがよくあったけど、あのときの父さんは苦しかっただろうなあと思うんです。今でもはっきりと覚えているのが、算数の問題を教えてもらって、その次の日、学校にその宿題を持って行って答え合わせしたんです。そしたら全部間違えとった……。それで小学校のときな、父さんアホやなあとか思っていたんです。でも、昨日あんな映画を観てお父さんのこと思ったら涙が出そうになった。わからんのに一生懸命僕のことを思って教えてくれた気持ちがものすごくわかるんです。僕はほんまに一生懸命勉強して父さんを幸せにできる人間になりたいと思います。

T 3: みんなS君の思いをどう聞いた。みんなの思いをつなげていこう。

C 2: 僕は昨日の映画観て、最後に「教育学部に進学して、私、夜間学校の先生になる。」と言った言葉が心に残っています。多分あの人は、あの先生と出会って、あの先生からもらった幸福を夜間中学校の教師になってこれから出会う人に伝えていこうとしているんだと思いました。僕は幸福を与えていくのが学校だと思います。だから、僕は将来学校の先生になりたいと思っていますので、僕も先生になったら本当に生徒たちに幸福を渡していくことのできる先生になりたいと思います。

- T 4: 二人の思いにつなげてください。みんなは昨日の映画、どう思った。どう聞いた。どう見た。どう感じた。みんなには感じる力があります。みんなの思いを語り合うことを通して、本当につながり合いたいと思います。
- C 3: 昨日、映画の終わりの方で「幸福」というのが何だろうという場面が出てきたけど、お金が幸福とか、いろんな形で幸福について話し合っていたけど、僕は幸福というのは、その人それぞれだと思います。僕にとって幸福というのは思いきりサッカーができることだと思っています。僕は幸福というのは、今一番やりたいことができるときとか、そのことをやろうとするときがその人の幸福だと思いました。
- T 5: みんなの思い、みんなの感動しっかりと語っていきましょう。そのことが自分自身を解放していくことにつながっていく。みんなの思い語り合しましょう。
- C 4: 昨日の映画を観て思ったことなんですけど、私たちがあたりまえだと思っていたことが、あの映画の中ではあたりまえじゃなくて、私たちは文字とか計算ができて、それがあたりまえになっとるけど、そういう考え方が間違いということが、昨日分かってきた気がします。なんか自分の価値観でしか物事をとらえられないことが、人間としてとても恥ずかしいことだと思ったりします。あの映画を通してとても大切なものを教えてもらったような気がします。
- T 6: さっきS君が自分の生活と重ね合わせて語ってくれましたね。みんな自身と生活と重ねていろいろ思ったこと、感動したこと、そのことを出し合しましょう。
- C 5: 最後に夜間中学の認められている数が35校で、ボランティアで実施しているのが数校と書いてあって、それ見たときそんなに少ないのかなあと思ったんです。映画の中で勉強している人の姿を見たとき、もっともってこんな学校を必要としている人がいると思うから、もっともって数を増やすべきだと思いました。
- C 6: イノさんというおじさんが、妹とかお父さんとかお母さんとかが死んでしまって、すごく寂しかったかもわからんけど、夜間中学校のみんながいたから生きていく支えになったとか、やっぱり人間というのは、一人では生きられないものだと思います。
- C 7: 私は正直なこと言ったら、夜間中学というイメージは、いいイメージではなかったんです。そんなイメージを持っていたから、その意識が差別意識となって、親戚の人に私がI高校に進学すると言ったとき、「I高校や行かれん」と言われても何も言い返すことができなかつたんだと思います。
- C 8: 私も、映画を観ていて思ったことだけど、世間体とかを気にして私は本当に大切なことを見ていないと思いました。夜間中学校の人たちは、一人一人が自分自身の生き方を持っていたいなあと思いました。私は今高校のことですごく悩んでいて、徳島商業に行きたいのに不安で不安でうじうじしています。映画を見ても、今の私を見ても、今を一生懸命に生きることが大事だと思いました。やっぱり努力せなあかんと思います。
- C 9: 映画を見て思ったことなんだけど、人にはそれぞれつらいことがあるんだと思いました。私は特にイノさんという人が黒井先生に、「生きる次元が違うんだよ」と怒っているのを聞いて、心がグツときました。黒井先生は仕事を休んでもお金が入ってくるけど、イノさんは仕事を休むとお金が入ってこないということとかで、イノさんは「次元が違う」と言ったんだと思います。でもそんなことで人の価値は決まらないと思います。昨日の参観授業のとき、Hさんが「一生懸命に生きている人は輝いている」と言っていました。イノさんも黒井先生も一生懸命生きているんだから、すごく輝いていると思います。イノさんが自分を卑屈に思っているの

は違うと思いました。それと最後の方に「幸福とは何か」ということを言っていて、「それをさがすために勉強しているんだ」と答えているのを聞いてすごいなあと思いました。私の親や親戚の人は、学校は勉強のためだけに行って、良いところにお嫁に行くためだと思っています。もし今度そんなことを言ったら言い返したいと思いました。そして、学校で人を決めるようなことはやめてほしいと思いました。でも私も、夜間中学という、悪い見方をしていました。それがこの映画を見て見方が変わったと思います。私も自分の行きたい高校に行って、学校の先生になりたいです。そして、生徒が輝くような授業をしたいなあと思いました。

C10：私の一番心に残っているところは、最後のところでエリ子という女の子が、高校に行って大学の教育学部に行って夜間中学の先生になると言ったところです。学校で学ぶということは、そんな将来への目標を持つことだと思います。

C11：僕はみんなと部落問題の学習をしてきたことによって、僕自身の生き方は変わってきました。今まで父さんのことなんかもだれにも話をするのではないと思っていました。でも、みんなの思いを聞いて、みんなと部落問題の学習をしていく中から、自分に自信がもてるようになったし、父さんがたまらなく好きになりました。学校で勉強するということが、そんな生き方をつかんでいくことだと思います。

T 7：私もそうなんです。私も先生になったばかりの頃は、私の父親のことは、だれにも話してませんでした。私の生まれた町には、私と同じ苗字の先生が二人おいでで、ちょうど私の父親と同じぐらいの年齢なんです。それでその二人の先生の息子さんとよく間違われるんです。今もそう思い込んでいる人がいます。よく「お父さん、お元気ですか。この前お世話になりました。」とか、「お父さんの話、聞きました。」ということと言われるんです。多分間違って話をしているんだなあと思っても、5年ぐらい前までははっきりと自分の父親のことを言いませんでした。でも板野中学校にきてみんなと全体学習に取り組んでいく中で、私は父親に対する思いが大きく変わりました。今は「父はこういうふうにして頑張って、一生懸命生きています。頑張ってくれています。」ということが、胸張って語っていけるようになりました。私は同和教育の営みの中で父親が大好きになってきたんです。あの映画にしてもそうなんです。今、みんなが取り組んでいる部落問題学習というのは価値観を変えていく営みです。みんなが進学する学校、たとえば板野高校をあまりいいイメージもってなかった子が、自分自身の生き方として学校へ行くことの意味を考えていくことによって、その学校に行くことを誇りにし、本当に頑張っていける自分になれる。そういうふう人間は変わるんです。教育というのはやっぱり変わることだと思うんです。

C12：僕が変わった理由というのははっきりとはわからんけど、僕は父ちゃんに感謝しています。小学校のときに柔道を始めるとき、父ちゃんに結構反対されてとって、柔道をさせてくれないような感じだったけど、父さんは僕の気持ちをわかってくれて精一杯応援してくれるようになったんです。だから父さんにはすごく感謝しています。それと父ちゃんは、結構おもしろいところがあって、しょうもないギャグを言うこともあって、何かわからんけど好きなんです。

T 8：S君の思いにみんなはどう返す。

C13：S君は親を信頼できるというのがすごい素晴らしいことだと思います。やっぱり親を嫌ってばかりだったら、今のS君の意見はないと思うし、やっぱり僕も親に対する気持ちを大切にしたいと思います。

C14：私もそういう部分が、全体学習からどんどん増えると思うし、お父さんのこととか人間と

して大切なことを学んでいくことが、学校へ来ることの意味だと思います。

C15: 僕は学校というのは、どんな環境でも本来素晴らしいところだと思います。中学で学んでいる人も、高校で学んでいる人も、夜間中学校で学んでいる人も、結局人間について学んでいるんだと思います。映画の中で「幸福」とは何かというのがあったけど、学校での「幸福」とは、何気なく授業をしていても、一人一人が楽しく仲間と話したりしていれば、それが「幸福」だと言えらると思います。でも学校が嫌いな人がいるけど、いつか好きになればそれで最高の「幸福」になってくるんだと思います。

T 9: 「幸せ」というのは、その瞬間瞬間一生懸命生きているということ、頑張っているということ、また自分自身が大好きになること……。いろんなとらえ方があるでしょう。仲間の思いに重ねて我々自身の本当の思いを語っていこう。そして、我々自身を変えていこう。あの映画に重ねて、あの映画の中に登場した一人一人の思いに重ねて、みんなの思いを語っていこう。それが自分を表現できる喜びであり、そこから本当の幸福が生まれていくと思う。中学3年が終わりに近づいたこの時期、あの感動に震えた映画を見た翌日のこの時間をすごく大事にした。

C16: 僕のお父さんは、昔はすごく恐かったけど、今はすごく父さんに対して尊敬できることがあります。それはあの映画に出てきた人たちのように一生懸命生きていることです。

C17: 私も夜間中学校って聞いたとき、あまりいいイメージを持ってなかったけど、私は、今学校へきているのは、夜間中学校で学んでいる人のような思いで学校へきていると思うけど、夜間中学校へ行っている人は、自分たちが本当に学校へ行きたいって思って、学校で勉強しているから、自分が進んで勉強して自分で漢字とか計算の仕方とか覚えて、その一つ一つがその人たちの喜びになっていて、人それぞれに生活は違うけど、人それぞれに幸福があって、その人自身が幸せを感じていくんだと思います。

C18: 昨日の映画を観て、学歴のこととかの話があったけど、私自身、親から全然勉強しないと言われるんだけど、私は別に勉強できるということも大事かもしれないけど、勉強というのはできないことがあっても、それぞれにやる気を持って頑張れば、特別難しい研究とかは別にして、必ずできるようになるものだと思います。けど、その人のもっている本当のすばらしさというのは、その人自身にしか表現することができないから、みんなが自分に自信を持って自分の個性を精一杯伸ばしていくことがとても大事だと思います。

C19: 私も昨日の映画を見て改めて考えさせられるものがありました。小さい頃からなんらかの原因で学校へ行くことのできなかった人たちにとって夜間中学校というのが、どれだけ心の支えになっていたか、数え切れない部分がたくさんあると思います。私自身、夜間中学校や定時制高校へ行くのはみっともないことだという意識がどこかにありました。けどこの映画を見て自分の中に今まで植え付けられてきた考え方からやっとなんか解放されました。今の世の中は学歴がついて廻る世の中だけど、私はそんな社会そのものがおかしいと思います。勉強ができるということは、いろんな場面においてもいろんな意味においてもいいことかもしれません。けど今の社会は学歴のあるものだけによって築かれてきた社会ではないと思います。勉強というのはやる気さえ起これば必ずできるものだと思います。また勉強というのは、本来楽しいものであって、学歴にとらわれた人生というのは楽しくないし、自分というものがあってよかったなんて思えないと思います。

C20: 私もS君のお父さんの話を聞いて、私もお父さんのことをいろいろ考えてみました。私の

お父さんが生きてきた中にもいろんなことがあったと思います。私のお父さんは、いつもは何か機嫌が悪いんやけど、今朝は「おちびさん、早よう起きなよ。」って言って、「お父さん、なに言よん。」って言ったんだけど、今朝みたいにとときおもしろいときがあります。まあ、お父さんがいるから私もやっぱり幸せに暮らしていると思うし、家族がいるから自分も幸せでおれるってことを自覚して生活していけば、本当の幸せになれると思います。

C21：私は映画を見てたくさんのことを学べたと思います。あの映画が訴えていることは、今一番求められていることだと思います。私は夜間中学校というものを通して自分の状態を見つめ直すことができました。映画の中で何回も何回もしくじりながら、一枚の葉書を書き上げたときの感動はすごいものがありました。苦勞して字を覚えたり葉書を書いたりすることができたのは、お互いの存在を大切にし心の底から喜び合える仲間ができたからだだと思います。

C22：私はあの映画を見て、学校というのはただ知識を深めるためにいくというのじゃないと思いました。学校はあの映画が訴えているようにもっと楽しいところだと思ったし、生きる喜びをつかんでいくところだと思いました。だからエリ子は大学へ行って、またこの夜間中学校に戻ってくると言ったんだと思います。楽しくなかったらそんなことは思わないと思います。それと幸福というのは、お金なんていう使えばなくなるものではなくて、ああいう生き方をしたいとか、生きていてよかったとか、そんなものだという言葉が心に残っています。あの夜間中学校は、勉強だけでなくどうして学校にきたいのか、その気持ちを大切にしていって向かい合った授業をしています。私たち板野中学校でやっている全体学習とつながるものがあると思いました。

C23：自分は何の苦勞もなく、字が書けて好きなことをしてきました。学校にしてもあたりまえのように行けて、勉強も教えてくれる。でも世の中には行きたくても学校に行けない人や、ものすごく厳しい状況で生きている人がいます。でも人間というのは一生懸命生きることが、その人の心を豊かにしていくのだと映画を見ていて思いました。

T10：つなげてください。

C24：私もあの映画を見ていろいろなことを思ったけど、一番心に残ったことは私たちがあたり前だと思っていたことがあたり前でなかったことです。文字にしても、今の私には書いてあたり前だと思っていたけど、その私の考え方は間違っていることに気づきました。私は習い事に行きたいと言ったら行かせてくれたり、私の好きなようにさせてもらえます。でも映画の中でかなり年配の人たちが一生懸命に苦勞しながら頑張っている姿を見て、私は今まで何をしてきたんだろうって思いました。苦しんだり悩んだりしながらも一生懸命に頑張っている姿は、本当に美しいものだと思います。映画の最後に幸福って何だろうと話し合っていく場面があったけど、あのひたむきに頑張る姿が本当の幸福を築いていくんだと思いました。それと、映画の中で黒井先生が言っていたけど、学校というのは勉強したい人が行くところだと思いました。そして人間は勉強というか、お互いに話すことでわかり合えるし、仲間になれるんだと思います。

C25：昨日の映画を観て、夜間学校に行っていた人たちの頑張る姿に感動しました。一生懸命になれることが本当に素晴らしいことだと思います。僕も勉強やいろいろなことに一生懸命になれるようにしたいです。

C26：私も一応、高校は行きたいと思っているけど、それはみんなが行くからで、別に自分から勉強したいというのはなかったけど、夜間学校にっている人たちは別に勉強しなくても、いいとかだれからも学校へ行くことや勉強することを強制される立場ではなかったと思いま

- す。それなのに一生懸命です。どうしてあんなに頑張れるのかと思いました。勉強というのは義務ですのではなくて、自分から学んでいこうとすることがとても大切だと思ったし、自分のいいかげんさが見えて、今の私のままでは本当の幸福をつかんでいく勉強にはなっていないと思いました。あの映画は、私が見失っているととても大切なものを示してくれたと思います。
- C27：昨日の映画を観て、夜間学校の人は勉強とかを一生懸命していて、一生懸命にすることは、その人を幸福にしていくんだと思いました。僕も一生懸命しようと思いました。
- C28：夜間学校に通っている人は、本当に勉強したいと思っている人が集まって頑張っている学校だから、本当に楽しそうに見えたんだと思います。私は高校になるとみんなと離れて一人になってしまいます。でも自分が選んだ道だから後悔しないし、また新しい友だちや先生と頑張りたいと思っています。一人で板野中学校という大きなものを背負うようになるけど、板野中学校で過ごした3年間を大切にいろんな経験を生かせるように頑張りたいです。
- C29：昨日の映画を観るまで夜間学校があるっていうのは知らなかったので驚いたけど、映画の中で人はすごく楽しそうでした。登校拒否の人や字が習いたくて通い出した人や、立ち直りたくて夜間中学校にきている人たちはとても伸び伸び生きているように思いました。最後にイノさんが亡くなって、みんなで幸福について話し合ったとき、最初はお金があることが幸福とかいう意見もあったけど、みどりが今までのことについて話したときに黒井先生に会って幸福になれるかもしれないと思ったと言っていたけど、私も幸福というのは形ではないと思います。幸福というのは切り開いていくものだと思います。私も頑張って勉強して自分の幸福を切り開いていきたいと思っています。
- C30：僕もS君と同じようにお母さんがいないけど、今お父さんを僕は信頼しています。小学校の頃はいつもお父さんの言うことは絶対で、お父さんの励ましを支えとしていろんなことを頑張ってきたけど、中学校になって自分自身が少し駄目になったところもあって、お父さんの思いに応えることができなくなっていたように思います。お父さんは家のことと、仕事とで本当に大変だと思います。僕は頑張って勉強していつかお父さんを支えていくことのできる人間になりたいって、S君の発言を聞きながら思いました。そのためにもちろん高校に行くことができるように今の毎日の勉強を頑張ります。
- C31：昨日の映画、すごく寒くてたまらなかったけど、中学3年の最後にあんな映画をみんなで見ることができて本当によかったと思います。学校に来るということの中で一番大切なのは、学校で何かを学ぼうとする気持ちであり、頑張ろうとすることだと思います。僕はこれから高校へ行くけど、なんとなく学校へ行くのではなくて、学校に行くことの意味をもっともって考えていきたいと思っています。
- T11：昨日はM君にとって記念すべき日、合格発表の日にあの映画を見たことはとても大きいと思うよ。あの映画の感動はこれから高校で頑張っていく大きなエネルギーになっていく。M君の思いにつなげてください。
- C32：昨日の映画観て、幸福って何だろうとか、幸福を見つけるために勉強するっていうことを言っていたのを聞いて、私はすごい楽な気持ちになって、これでまた頑張ろうっていう気持ちになり、やる気ができました。みんな、50才や40才の人がやっているとかいっていたけど、私は今ままで40才になったらおばさんじゃとか思っていたけど、やっぱり年とか関係なくって、一生懸命に字を習っている40才の方が、ディスコとかで踊っている20才よりすごいと思うし、やっぱり私のお母さんも、今が一番いいとか、仕事が楽しいとか言ってい

るので、私もそんな大人になっていくことができるように頑張ろうと思いました。

T12：幸福ってということについて、その瞬間瞬間を一生懸命生きることが幸せでないだろうか
ってことを生活ノートに書いてくれた人がいました。あの映画の中の場面や今友だちが語
ってくれた思いに重ねて、あの映画から伝わってきた感動について語り合いたいと思います。

C33：昨日の映画観て、字が書けることがその人の人生をとて豊かなものにしていくんだと思
いました。

C34：僕はあの映画を見て学校のすばらしさがわかったように思う。映画の中でみんなが求め合
った幸福についてだけど、幸福というのは「ありがとう」と言えることだと思う。先生に感謝
し、仲間に感謝し、これから出会う人に感謝できる生き方をつかんでいくこと。それが幸福を
求めることだと思います。学校というどうしても勉強ばかりという感じがしてきたけど、学
校には仲間とのふれあいがあって人間的な心を育ててくれる場だと思いました。

T13：中学3年の一番多感な一番感動する一番涙が出る時代、うれしいにつけ悲しいにつけ涙が
こぼれそうになる一番多感なときに、あの映画が封切られてあの映画を仲間を共に観たとい
うこと、そして、その映画について思いを語り合ったということ。そこにどんな意味があるのか。
そのことを語り合っていきましょう。

C35：あの映画を見ていて、僕はもう少しで泣きそうになる場面がいっぱいありました。生徒一
人一人の夜間中学校にたどり着くまでの道のりが、僕には想像がつかないくらいつらいものが
あったことが印象に残りました。最後の幸福とは何かというところで僕も考えました。もしお
金だとすると、もちろんある方がいいけど虚しいような気もする。でもじゃあ何だと言われた
ら言葉が詰まる。結局、僕の中にある幸福というのは、自分の夢だと思いました。それと最後
の最後に現在夜間中学校は全国に35校、ボランティアで実施しているのが10数校しかない
というのを見て驚きました。大阪あたりだけでも確か7校くらいあると聞いたような気がする
ので、全国には100校くらいあると思っていたので、全部あわせて約50校しかないとい
う現実に少しショックを受けました。

C36：あの映画を初めて知ったのは、前に雑誌を読んでいたときにその記事を見つけたときで、
ずっと見たいと思っていたので、全校で見ると聞いたときはすごくうれしかったです。あらず
じは知っていたけど、どの場面にも胸がいっぱいになりました。人間はいろんな苦勞を背負っ
て、精一杯に生きているんだと思いました。中には中国の人もいて、日本という社会の中で生
きていくことの苦しさが伝わってきました。日本人がフランスやイギリスの人を見る目と、中
国や東南アジアの人を見る目、私たちの意識の中には差別意識が入り込んでいることに気づ
きます。最後の幸福について語り合った場面があるけど、学校で学ぶことの意味の中には、そ
んな差別意識を洗っていくことが根本にあると思います。あの夜間中学で学んでいる人たちは、
お互いの苦しみや悲しみを分かち合っているから、一つ一つのことによって一生懸命になることが
できて、きらきら輝いているんだと思いました。

C37：この映画はCMで流れたときから、ずっと見たいと思っていました。ずっと思っていた通
り感動的な映画でした。本当の生き方って何だろうと思ったし、最後の方に幸福ってどんな
意味だろうと言っていたけど、私はずっと考えていました。私はお金じゃなくて生きる喜びだ
と思います。毎日本当に生きていてよかった、生まれてきてよかったと思えることが本当の幸福
だと思います。50歳を越えた人たちが一生懸命に字を覚えているのを見て、何事も一生懸命
にすることが幸福を呼ぶんだと思いました。

- C38：私もいろいろな人が夜間中学校に通っていて、勉強したいという気持ちは同じなんだと思いました。私は世間体とかを気にしてしまうけど、夜間中学校はそういうんじゃないかって一人一人が自分の生き方を持っていて、いいなあと思いました。私は今高校のことですごく悩んでいて、徳島商業に行きたいんだけど、努力できていないのですごく不安になってやっぱり〇〇高校にしようかなとか考えています。本当に行きたいのは徳島商業なのに、点のことを考えたら不安になってしまいます。でも頑張って徳島商業へ行って幸福になります。
- C39：Tさんが高校のことで悩んでいて、昨日から高校を変えとかいって、すごく悩んでいると聞いていたけど、私はTさんには本当に行きたい学校があるんだから、その目標に向かって全力で頑張って絶対行きたい学校に進んでほしいと思っています。
- C40：さっきTさんが徳島商業に行って幸福になるって言ったけど、それが本当の勉強の意味だと思います。
- T14：頑張れ、歩かなかつたら峠は越えれん。Fさんに続いてください。いっぱい語ってくれた思いにつながってください。
- C41：さっきの休み時間にTさんが「もう〇〇高校にしたけん。」とか言よつたんやけど、そのときは「ほな、一緒に行こう。」とか言ったけど、やっぱり徳島商業に行きたいんだつたら、絶対その信念を貫いてほしいです。私もいろいろ悩んで進路を決めたけど、みんながどの高校に行くかということはあまり考えない方で、自分自身が進む高校についてもそんなに深刻に考えることはなくて、Tさんみたいに真剣に考えたことがなかったので、自分の進路について真剣に考え悩んでいるTさんを見てすごいなあって思ったし、絶対行けると思うのでTさんがやっぱり本当に幸福になりたいんだつたら、〇〇高校だつたら悔いが残ってあかんと思うし、私は〇〇高校に進むけど、(全体：笑い)やっぱり精一杯頑張って絶対行きたいという気持ちのある徳島商業に進んでほしいです。
- C42：Fさんが言ったように、Tさんが「私、〇〇高校に決めたけん。」とか言ったとき、ずっと一緒に徳島商業へ行こうと言ってきたのですごくつらかったです。でも、今はやっぱり徳島商業の受験に向いて頑張っていくって聞いてすごうれしかったし、私も徳島商業に進学したいと思っているんだけど、私は単純だから悪い点とったりしても、あんまり気にしないところもあるけど、すごく不安になることもあります。でも本当に私は徳島商業に行きたいし、徳島商業へ行って今まで頑張ってきたことを徳島商業で出会った人にぶつけていきたいし、徳島商業に行った先輩に続いていきたいし、昨日も言ったけど、A先輩のように頑張りたいし、先輩は今年板野中学校を卒業していく私たちに何かを求めているような感じの話もしてくれるし、本人からやっぱり、一人で頑張るとんやなあって思うし、本当にあと少ししか時間はないけど、全力で頑張って絶対合格したいし、徳島商業に入ってから、今まで1、2年生のとき、私自身に嘘ばかり言って頑張っていなかった分、これからずっと頑張っていけると思うし、本当に強い自分にしていくためにも、今を全力で頑張って高校入試という峠を越えたいと思います。
- C43：昨日の映画を観て頑張っている人、頑張っている姿を観て自分の姿を振り返ってみたら、自分はちっとも頑張らなくて、しなければならぬこともまだできてなくて、そんなことを思いながら、昨日の映画を思い出していました。私も高校進学のことですごく悩んでいるけど、4月から大切にしてきた「昨日の自分より今日の自分が好き」という言葉を大切に頑張っていきたいと思います。
- C44：あんまりよく分からないところもあるけど、夜間中学校と昼間の学校を比較する心がどこ

かにおいて、僕の心の中には夜間中学で学んでいる人たちに対しての差別意識があるように思います。人間として大切なことはいかに一生懸命に生きているかだということをあの映画の中で思ったし、一生懸命に生きている人の生き方を尊敬するのが本当の人間としての生き方だと思えます。

T15：知らず知らずのうちにみんなが空気を吸うようにそういう差別意識が入ってくる。あの人は〇〇高校へ行っている。あの人は〇〇高校へ行っている。あの人はあかんってというような差別意識。〇〇高校へ行っている。あの人はごっついいいというような意識、そういう価値観を変えていく。本当の幸せって何か。学ぶってどういうことかをきちっととらえていく。そういう人生を歩んで欲しいと思うんです。

C45：幸福というのは、自分の目的があって自分の好きなことをやって暮らすことだと思う。人に足をひっぱられたり、とやかく言われたりして、自分の行動を見失ったりせんと、自分の好きなことや自分の本当にやりたいことをやっていくことが本当の幸福だと思う。

C46：映画の中で「人間らしく生きること、幸福を見つけるために勉強する」と言っていたのを見て、私はなんだかほっとしました。この映画を見てなんか心が広がったような気がします。高校に進学しても、自分というものをしっかりと持って、今まで以上に頑張らないかんと思えます。

C47：あの映画は監督の訴えたいものがごく自然に表わされていたと思います。あのクラスの全員が一つの家族のように思えてきました。喧嘩もあったけど、温かいものを感じました。先生がさっき話してくれたように私の中にも夜間中学という意識の中に差別的なものがありました。学歴社会の中で学ぶことの本質を私たちは見失っているんだと思います。あの映画は私たちに人間として生きていくことの意味を訴えていると思いました。

C48：どうしても受験のことに話がってしまうんだけど、私の周りにも高校を変える人がいて、なんか自分より点数のいい人が進学する高校を変えるというのを聞いて、情けないこと言うなという気持ちにもなるんだけど、自分も一生懸命に頑張ろうとしているのに、ドミノ倒しみたいに倒れてくる仲間に対して、負けるなよって言いたいんだけど、やっぱり一緒に倒れてしまいそうになるけど、今一度どうしてその学校に行きたいのかを自分自身で確かめて、毎日の勉強を全力で頑張れるようにしたいです。

T16：生きるってということ、学ぶってということ。みんなはどんな思いを仲間の発言から感じ取りますか。

C49：私は高校に進むというのは、自分自身がその高校でどのように頑張ろうとしているかが一番大切だと思います。だから、その人自身が行きたいって思った方向に頑張って勉強して、テストを受けてそれで合格してこそ、高校でも頑張ることができるんだと思います。その思いがなければ学校というのは、絶対楽しいところにはならないと思います。

C50：僕の親は僕に対していい大学に行って、いいところに就職してと言います。親は親なりに僕のことを考えてくれているので僕もそうなるように頑張っていこうと思っています。でもみんなの意見を聞く中で思ったことだけど、自分に何がやりたいかというのがなかったら、自分を無理な環境に追い込んでも何も残らないと思います。やっぱり人は自分の成りたいものとか、やりたいものとか、納得して動かなかつたら、本当の幸福はつかむことはできないんだと思えます。

T17：もう時間がきてしまったんだけど、今日みんなの発言を聞いていていろんなことを思い

ました。それは人間は人間の本質にふれることによって揺さぶられ変わっていくということです。みんなの中に育った思いというのは、これからの人生をみんなが生きていく指針になっていくと思います。授業とは仲間の本当の思いにふれ、自分自身の生き方を求めていくものだと思います。今日語ってくれた人の思いを受けて、みんな自身の生き方をより確かなものにしてほしいと思います。最後に今日の授業の最初に燃えるような思いを語ってくれたS君。S君を変えたものは何だろうか。最後に思うことを語ってほしい。

C51：僕が変わったのは、先週の月曜日に学習会に行ってからだと思います。たぶん、僕一人だったら参加できなかったと思います。でもあのときはY君とかM君とかが一緒だったので僕は中学校にきて初めて学習会に参加することができたんです。そしたら今まであった重たいものが、なくなって本当に心が軽くなったというか、僕は頑張れるというような思いになってきました。僕はあの日、学習会の仲間から大きな自信をもらいました。だから今あの学習会場と一緒に行ってくれたY君とM君にもものすごく感謝しています。

T18：終わります。



春の遠足（香川県・公洲公園）



体育祭 学級全員なわとび



全校全体学習



学年全体学習